

令和5年度（令和4年度対象）

「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検及び評価」

報 告 書

令和5年9月

相馬市教育委員会

はじめに	
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	・・・ 2
ご意見をいただいた学識経験者	・・・ 2
I 教育委員会の会議の概要	
1 教育委員会の委員	・・・ 3
2 教育委員会の会議	・・・ 3
3 教育委員会会議以外の活動状況	・・・ 5
II 事業の点検及び評価	
1 点検及び評価の概要	・・・ 6
(1) 目的	・・・ 6
(2) 対象事業	・・・ 6
(3) 点検・評価方法（第1次評価）	・・・ 6
(4) 教育委員による意見（第2次評価）	・・・ 6
(5) 教育に関する学識経験者の知見の活用	・・・ 6
(6) 点検・評価シートの説明	・・・ 7
III 点検・評価の結果	・・・ 8
【学校教育】	
1-1 確かな学力の育成	・・・ 9
1-2 豊かな心の育成と生徒指導の充実	・・・ 10
1-3 学校施設の整備・充実	・・・ 11
【生涯学習】	
2-1 相馬市まちづくり出前講座の実施	・・・ 12
2-2 青少年健全育成市民会議活動の充実	・・・ 13
2-3 地域づくりを目指したふれあい、交流事業推進	・・・ 14
2-4 特色ある公民館活動の推進	・・・ 15
2-5 図書資料等の充実と利用推進	・・・ 16
【文化】	
3-1 音楽の郷づくり事業の推進	・・・ 17
3-2 相馬市史編さんの実施	・・・ 18
3-3 市民の文化振興の拠点、利活用促進	・・・ 19
3-4 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催	・・・ 20
【体育・スポーツ】	
4-1 スポーツ少年団活動の充実	・・・ 21
各部門別評価対象事務事業一覧	・・・ 22
IV 教育委員の意見	・・・ 23
V 学識経験者の意見	・・・ 31

はじめに

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会には、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会へ提出するとともに市民に公表することが義務付けられました。

この法改正は、教育委員会が事務の管理・執行の状況を自ら点検と評価を行い、その結果を公表することにより、より効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすという趣旨に基づくものです。

相馬市教育委員会では、本報告書により令和4年度の教育に関する事務の取り組み状況を報告します。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

<ご意見をいただいた学識経験者>

柳沼 哲（やぎぬま さとし）

福島大学 人間発達文化学類 特別支援・生活科学コース 特任教授

高野 孝男（たかの たかお）

福島大学 人間発達文化学類 附属学校臨床支援センター 特任教授

（敬称略）

I 教育委員会の会議の概要

1 教育委員会の委員

相馬市教育委員会は、教育長と5人の教育委員（※現在欠員1）で構成され、教育長と教育委員は市議会の同意を得て、市長が任命します。教育長の任期は3年で、教育委員の任期は4年です。

教育長は教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどります。

(令和5年5月1日現在)

職名	氏名	職業	任期
教育長	福地 憲司	元中学校長	令和5年1月5日 ～令和8年1月4日
教育長職務代理者	宗形 明子	(有) 飛天女将	令和4年10月1日 ～令和8年9月30日
委員	森 陽子	(有) 池田生花店 代表取締役	令和3年10月31日 ～令和7年10月30日
委員	関根 進	㈱IHIキャスティング 相馬工場総務部グループ部長	令和2年7月1日 ～令和6年6月30日
委員	菅野 明彦	歯科医師	令和元年10月1日 ～令和5年9月30日

2 教育委員会の会議

(1) 定例会、臨時会

令和4年度は、定例会8回、臨時会2回の会議を開催し、22件の議案を審議しました。

開催日及び会議の種類		議案
4月11日	定例会	相馬市公立学校研究指導員の任命について
		相馬市小・中学校学力向上推進会議委員の委嘱について
5月10日	定例会	相馬市学校評議員の委嘱について
		相馬市教育支援委員の補充委嘱について
		相馬市教育支援臨時委員の委嘱について
		相馬市社会教育委員の補充委嘱について
		相馬市放課後子どもプラン運営委員会委員の委嘱について
		相馬市歴史資料収蔵館協議会委員の委嘱について
		相馬市公民館運営審議会委員の補充委嘱について

		相馬市図書館協議会委員の補充委嘱について
7月5日	定例会	議案の審議なし
8月2日	定例会	相馬市要保護及び準要保護児童生徒等就学援助実施要綱の一部を改正する要綱について
		相馬市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する要綱について
10月4日	定例会	相馬市教育委員会教育長職務代理者の指定について
		相馬市図書館協議会委員の任命について
11月1日	定例会	議案の審議なし
1月10日	定例会	議案の審議なし
2月7日	定例会	相馬市教育振興基本計画2023について
		第三次相馬市子ども読書活動推進計画について
3月2日	臨時会	令和5年度県費負担教職員管理職の人事発令内申について
		令和4年度教育費3月補正予算について
		令和5年度教育費当初予算について
3月15日	臨時会	令和5年度相馬市職員の人事発令内申について
		令和5年度相馬市立幼稚園長及び教頭の人事発令について
		教育委員会の所管に係る個人情報保護に関する法律施行細則の制定について
		相馬市公立学校研究指導員設置規程の一部を改正する訓令について

(2) 移動教育委員会

教育委員が教育現場に出向き、現況視察、教職員との意見交換を通じて、状況を把握することにより問題点や課題等を明確にし、教育委員会としての対応策を探るため、移動教育委員会を行いました。

開催日	場所	意見交換会のテーマ
10月14日	相馬市立中村第一中学校	RSTの取り組みについて
		生徒指導の課題について

(3) 報告及び協議事項、教育行政の課題の議論
 議案に準ずる重要な案件については、報告及び協議事項として議論しました。

開催日	内 容
4月11日定例会	[報告]令和4年第2回市議会定例会における質問について
	[報告]財産の取得について
	[報告]公の施設の指定管理者の指定について
	[報告]公の施設の指定管理者の指定について
	[報告]相馬市教育研究実践センター所長の任命について
	[報告]相馬市教育研究実践センター指導主事の任命について
	[報告]相馬市教育研究実践センター指導主事の任命について
	[報告]相馬市社会教育指導員の任命について
	[報告]相馬市社会教育指導員の任命について
	[協議]なし
5月10日定例会	[報告]令和4年第3回市議会臨時会教育費予算について
	[報告]令和4年第3回市議会臨時会における質問について
	[協議]なし
7月5日定例会	[報告]令和4年第5回市議会定例会教育費予算について
	[報告]令和4年第5回市議会定例会における質問について
	[協議]なし
8月2日定例会	[報告]令和4年第6回市議会臨時会教育費予算について
	[協議]なし
10月4日定例会	[報告]令和4年第7回市議会定例会教育費予算について
	[報告]令和4年第7回市議会定例会における質問について
	[協議]相馬市民生員推薦会委員の推薦について
11月1日定例会	[報告]なし
	[協議]相馬市総合教育会議について
1月10日定例会	[報告]相馬市教育委員会教育長の任命について
	[報告]相馬市スポーツ施設条例の一部を改正する条例について
	[報告]令和4年第9回市議会定例会教育費予算について
	[報告]令和4年第9回市議会定例会における質問について
	[協議]相馬市教育振興基本計画2023について
2月7日定例会	[報告]なし
	[協議]なし

3 教育委員会の会議以外の活動状況（教育長を除く）

- ・教育委員研修会等 5回（延べ12人）
- ・その他学校行事等 5回（延べ10人）

Ⅱ 事業の点検及び評価

1 点検及び評価の概要

(1) 目的

教育委員会が、事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その報告書を議会へ提出し、公表することにより、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たします。

(2) 対象事業

相馬市教育振興基本計画2017の主要4分野「学校教育」「生涯学習」「文化」「体育・スポーツ」の中の事業を目的別にまとめた「施策」の中から13施策を対象とし、令和4年度の実施内容について点検及び評価を行いました。

(3) 点検・評価方法（第1次評価）

ア 評価単位

13の「施策」単位で行い、それぞれ1以上の事務事業について行なう。

イ 評価方法

施策を構成する「事務事業」の取り組み内容から、「必要性」「有効性」「達成度」について、1～5段階評価を実施し、それをもとに総合評価（A～D）を行い、さらにその事務事業の成果と課題を点検し自己評価としました。数値目標があるものは、その目標値にどれだけ近づけたかも参考にして総合評価を行いました。

- 必要性：「目的」「緊急性」「義務」「要望・要請」「適応性」「類似・重複」
- 有効性：「実効性」「進捗管理」「改善状況」「将来性」「情報提供」「効率性」
- 達成度：「必要性・有効性の状況」「数値目標に対する進捗状況」

(4) 教育委員による意見（第2次評価）

点検及び評価（第1次評価）シートに基づき、教育委員が施策の取り組み方などを第2次評価しました。

(5) 教育に関する学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項で規定する教育に関する学識経験者の知見の活用については、教育委員会で施策ごとに作成した「点検・評価シート（第1次評価）」並びに「教育委員による審査（第2次評価）」に基づき、学識経験者に意見・助言をいただきました。

(6) 点検・評価シートの説明

点検及び評価シート 1

部門名	振興基本計画の【章】を記載	No	—
-----	---------------	----	---

大項目	振興基本計画の【節】を記載
施策名	施策の体系図の【基本】を記載
構成する施策	施策の具体的内容の中の【主な施策】の1つを記載
担当部署	教育委員会担当部署を記載
施策の背景と目的	現在どういう状況(背景)にあって、それをどのようにしたいか(目的)やなぜこの施策が必要なのかを記載

【施策を構成する事務事業の自己評価】

施策を構成する事務事業の「必要性」「有効性」「達成度」を総合的に判断し自己評価(第1次評価)を記載

総合評価	<p>A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の目的に対してどのような成果があったかを記載 ・施策を構成する事業が、どのように施策に寄与したかを踏まえて記載 ・妥当な経費かどうかを検証して記載
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施策を進める上で課題や改善点を記載

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	施策を構成する事務事業の1つを記載						
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の全体事業内容を記載 ・評価年度に取り組んだ事業内容を詳細に記載 ・取り組んだ事業内容の経費についても記載 						
評価年度の取り組み	<p>右に記載の6項目についてチェックし、必要性が高いものほど数字が大きくなるように記載</p> <p>右に記載の6項目についてチェックし、有効性が高いものほど数字がおおきくなるように記載</p> <p>決算(見込)額を記載</p> <p>決算額を記載</p>						
必要性 1~5	数値目標と実績値を比較して達成度を記載 数値が大きくなるほど達成度が高い	目的 緊急性 義務 要望・要請 適応性 類似・重複	有効性 1~5 振興基本計画に記載されている数値を記載	振興基本計画に記載されている数値を記載	実効性 進捗管理 改善状況 将来性 情報提供 効率性	令和4年度 決算額	円
達成度 1~5	現況数値(平成27年度)	振興基本計画に記載されている数値を記載	目標値(令和4年度)	実績値	令和3年度 決算額	円	この事務事業の取り組みにより達成した実績値を記載

Ⅲ 点検・評価の結果

13の施策について、それぞれ1以上の事務事業について第1次評価を実施しました。それぞれ評価シートを次ページ以降に掲載し、最後に評価の「必要性」「有効性」「達成度」「総合評価」をまとめたものを「各部門別評価対象事業一覧」として掲載しました。

【学校教育】

- 1-1 【施策名】確かな学力の育成
[事務事業名] 学力向上推進事業
- 1-2 【施策名】豊かな心の育成と生徒指導の充実
[事務事業名] 心のケア事業
- 1-3 【施策名】学校施設の整備・充実
[事務事業名] 老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施

【生涯学習】

- 2-1 【施策名】相馬市まちづくり出前講座の充実
[事務事業名] 相馬市まちづくり出前講座の実施
- 2-2 【施策名】青少年健全育成市民会議活動の充実
[事務事業名] 青少年健全育成市民会議事業
- 2-3 【施策名】地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進
[事務事業名] 学習発表会の充実と強化
- 2-4 【施策名】特色ある公民館活動の推進
[事務事業名] 特色ある公民館活動の推進
- 2-5 【施策名】図書資料等の充実と利用推進
[事務事業名] 児童図書の収集

【文化】

- 3-1 【施策名】音楽の郷づくり事業の推進
[事務事業名] そうま音楽夢工房コンサートの実施
- 3-2 【施策名】相馬市史編さんの実施
[事務事業名] 相馬市史編さんの実施
- 3-3 【施策名】市民の文化振興の拠点、利活用促進
[事務事業名] 市民会館の利活用促進
- 3-4 【施策名】常設展・企画展の開催
[事務事業名] 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催

【体育・スポーツ】

- 4-1 【施策名】スポーツ少年団活動の充実
[事務事業名] スポーツ少年団活動の充実

点検及び評価シート1

部門名	学校教育	No	1	—	1
大項目	学校教育の充実				
施策名	生き抜く力を育む学校教育の充実				
構成する施策	確かな学力の育成				
担当部署	教育部学校教育課				
施策の背景と目的	確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成するために、学習指導、道徳教育、生徒指導、体育・健康に関する指導など教育活動全般に渡ったバランスのとれた指導を行う必要がある。また、家庭や地域との連携協力を図るとともに、研修等を通して教員の指導力の向上を図る必要がある。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	<p>A 事業をさらに推進することが妥当</p> <p>B 事業を現状のまま継続することが妥当</p> <p>C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要</p> <p>D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要</p>
成果	<p>・全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査の結果から、算数・数学に課題があるものの、国語科における言語文化についての理解が定着していることや、小学校算数において、図形領域の問題が県平均を上回るなど強みが見られ、各校において、RSの視点を意識した授業改善の成果であり、新聞記事やコラムシートを活用し、家庭学習との連携を図りながら新聞活用事業を行った成果が出ていると考えられる。</p> <p>・RSTの結果では、受検した全ての学年で「読解力」の向上が見られた。特に、図やグラフから分かることを文章と結び付けて内容を考えたり、言葉の定義を理解したりする点を得意としていることが分かった。</p> <p>・相馬寺子屋学習会については、感染対策をしながら年間18回実施することができた。</p>	
課題	<p>全国学力・学習状況調査や相馬市学力調査では、複数の情報や資料を読み取り活用する力に課題が見られた。また、RSTの結果からは、指示代名詞が指すものを捉える力に課題があったり、飛ばし読みの傾向が見られたりと「読む力」の傾向があることが明確となった。これからの時代を生き抜くための基盤となる「汎用的読解力」の向上とICT活用は重要であることから、今後もRS(リーディングスキル)を意識した授業改善とICT機器を利用した資料の提示や思考過程の見える化など効果的な活用を図り、児童生徒の思考・判断・表現力の向上を図ることが必要である。</p>	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	学力向上推進事業								
事業概要	<p>東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興のためには、学校の教育課題を踏まえた具体的な取組を推進し、将来を担う子供たちに確かな学力を身に付けさせ、将来の職業選択の可能性を高めるとともに、これからの時代を生き抜くために必要な力(読解力)を身に付けさせるために、RST(リーディングスキルテスト)により読解力の可視化し、実態に基づいた授業改善を図る。</p> <p>・RST(リーディングスキルテスト)事業の実施</p> <p>・「新聞・新聞コラム」の活用</p>								
評価年度の取り組み	<p>1 RSTの実施と活用 【受検対象】小学5・6年、中学1～3年、教員 【実施時期】6～7月 【主な取組】相馬メソッドを基にした授業改善、実践資料のデータベース化、授業公開(11/10桜丘小)</p> <p>2 新聞活用、新聞コラム活用 【小学校】○毎日小学生新聞20回配付(5,6年児童・9校) 【中学校】○朝日中高生新聞20回配付(中学1年) ○新聞コラム30回(中学2,3年) ○進学講演会(中学3年) ○新聞コラムレクチャー会(中学2年)</p>								
必要性 1～5	5	<p>目的</p> <p>緊急性</p> <p>義務</p> <p>要望・要請</p> <p>適応性</p> <p>類似・重複</p>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	<p>実効性</p> <p>進捗管理</p> <p>改善状況</p> <p>将来性</p> <p>情報提供</p> <p>効率性</p>	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	<p>令和4年度 決算額</p> <p>令和3年度 決算額</p>	<p>8,308,132円</p> <p>7,637,900円</p>
達成度 1～5	4	現況数値 (平成27年 度)	—	目標値(令 和4年度)	—	実績値	—		

点検及び評価シート1

部門名	学校教育	No	1	-	2
-----	------	----	---	---	---

大項目	学校教育の充実
施策名	生き抜く力を育む学校教育の充実
構成する施策	豊かな心の育成と生徒指導の充実
担当部署	教育部学校教育課
施策の背景と目的	確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成するためには、学習指導、道徳教育、生徒指導、体育・健康に関する指導など教育活動全般に渡ったバランスのとれた指導とともに、家庭や関係機関等と連携し、児童・生徒の心のケアに努める必要がある。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	・QUアンケートを全児童生徒に年1回(6月※小学1年のみ11月)実施し、結果の生かし方について指導主事が訪問指導したり、教員研修会を実施したりすることで、不登校やいじめの防止等、学級経営に活用している。 ・適応指導教室の教育相談員を中心に不登校対策に取り組み、適応指導教室に通っていた中学校3年生1名も高校進学を果たすなど成果を上げている。また、スクールソーシャルワーカーも訪問活動83回、77人203件に対して相談支援を行い、相談件数の約2割が好転方向に向かっている。 ・相馬フォロアーチームの相談件数は322件であった。オンライン相談も認知が広がり、138件の相談を受けている。	
課題	生活習慣や病気、家庭的な環境等で不登校となる児童生徒が増加しており、学校だけでは対応が困難ケースが増えていることが課題である。学校による働きかけはもちろんのこと、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、民生委員や家庭児童相談員、医療機関との連携がより重要である。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	心のケア事業						
事業概要	○「相馬フォロアーチーム」によるカウンセリング業務・・・東日本大震災による精神的ダメージが子どもたちの健全な成長に影響することが懸念されることから、児童生徒や保護者の「心のケア」を目的として、臨床心理士によるカウンセリング業務を行う。 ○スクールソーシャルワーカー配置事業・・・学校だけでは解決困難な家庭問題が起因となる事案に対し、教員や保護者への助言・援助、福祉関係機関との連携調整を行う。 ○メンタルヘルスサポート事業・・・悩みを抱え、不安定になっている相談者に対して、医療の専門家によるメンタルヘルス相談を行い、心のケアを行うとともに、教育・福祉の分野から医療分野への相談を円滑に行う。						
評価年度の取り組み	1. 相馬フォロアーチームによるカウンセリング業務 ① 学校巡回カウンセリング(3名のカウンセラーが対応) ア 派遣校 中村二小(週2)、磯部小(週1)、中村二中(週1.5)、磯部中(週1) イ 津波被災4校だけでなく、相馬市内全校を対象とした相談支援も実施 ② LVMH子どもアートメン相談室での子育てに関する相談活動 ア 相馬市内の子どもや保護者を対象とした子育て相談(オンライン心の相談会実施) イ 教育委員会・適応指導教室・医療機関との連携 ウ スクールソーシャルワーカーとの連携(週1回の情報交換) 2. スクールソーシャルワーカー配置事業 ①週3日、年間30週の勤務 ・実践センターに拠点を置き、市内全学校に対応 ・令和4年度は77名の児童生徒に対応 3. メンタルヘルスサポート事業 ①月2回アートメンを会場とした精神科医による相談業務(ほりメンタルクリニック 堀有伸医師) ・令和4年度は24件39人に対応						
必要性 1~5	5	目的 緊急性 <input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input checked="" type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input checked="" type="checkbox"/>	令和4年度 決算額	23,8370,00円
						令和3年度 決算額	22,797,500円
達成度 1~5	4	現況数値 (平成27年度)	—	目標値(令和4年度)	—	実績値	—

点検及び評価シート1

部門名	学校教育	No	1	—	3
大項目	教育環境の充実				
施策名	教育施設等の安全・安心の確保				
構成する施策	学校施設の整備・充実				
担当部署	教育部 総務課				
施策の背景と目的	学校教育施設の整備については、耐震化対策と施設の老朽化対策を併せて推進する必要があります。校舎・体育館の耐震化対策については全て完了しております。老朽化対策については、児童生徒数が減少する中、建築年次や老朽化の度合いにより、改築もしくは大規模改修の対応方法を検討し、財政状況に合せた年次計画を作成した上で進める必要があります。また、設備の充実についても計画的に進めていく必要があります。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	幼稚園、小学校の老朽化した遊具について専門業者による安全点検を行い、併せて現在の安全基準に適合しているかどうか判断し、かつ園児や児童の人数に合わせた遊具の撤去、修繕、更新する計画を策定する。 安全点検で危険遊具の指定を受けた遊具を撤去した。 令和4年3月16日の福島県沖地震により被災した学校施設の応急復旧工事及び国の災害査定を経た後に本復旧工事に着手した。	
課題	学校施設は、地区の防災拠点としての役割を加味していかなければなりません、児童生徒数が減少する中、施設の統廃合や学区の見直しなどと併せて検討する必要があります、市内学校のあり方検討委員会で市内小中学校の将来を調査・検討し方向性を決めてから施設の整備・充実を図ることが重要となります。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施						
事業概要	これまで計画した、中村第二中学校校舎改築事業、空調機設置事業、学校洋式トイレ改修事業、日立木小学校改修事業については、令和2年度までに完了しました。 幼稚園、小学校の老朽化した遊具を専門業者による安全点検を行い、現在の安全基準に適合しているかどうか判断し、かつ園児や児童の人数に合わせた遊具の撤去、修繕、更新する計画を策定し、安全点検で危険遊具の指定を受けた遊具の撤去を行います。						
評価年度の取り組み	[幼稚園]	飯豊・大野幼稚園遊具設置工事	4,490,244円				
	[小学校]	大野小学校遊具設置工事	6,355,756円				
		桜丘小学校南校舎屋根塗装改修工事	6,930,000円				
		その他3工事	12,503,700円				
	[災害復旧]	中村第二中学校災害復旧校舎屋根その1工事	10,044,020円				
		中村第二中学校災害復旧校舎屋根その2工事	163,900,000円				
		その他3工事	34,760,000円				
必要性 1～5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input checked="" type="checkbox"/>	令和4年度 決算額	238,983,720円
						令和3年度 決算額	94,978,300円
達成度 1～5	5	現況数値 (平成27年 度)	—	目標値(令 和4年度)	—	実績値	—

点検及び評価シート 1

部門名	生涯学習	No	2	-	1
大項目	生涯学習推進体制の充実				
施策名	生涯学習意識の啓発と多様な学習内容の企画運営				
構成する施策	相馬市まちづくり出前講座の充実				
担当部署	生涯学習部 生涯学習課				
施策の背景と目的	市民一人ひとりが健康で心豊かな生活が送れるよう、相馬市の現状や歴史などについて市職員や関係機関の職員が講師となり、学習機会を提供し、市民の学習意欲に応えることを目的としています。また、生涯学習ボランティアの推進及び日ごろの生涯学習活動で習得した技術や知識を実践する場を提供するため、ボランティア市民講師による講座も併せて実施しています。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	市民の教養の向上及び学びの機会を提供し、令和4年度は2,111名の市民が出前講座を利用しました。ボランティア市民講師による講座は「御仕法について」や「マヤ暦ガイド」など20講座を用意し、生涯学習の実践の場を提供することができました。小・中学校の総合学習や地区老人会のほか、市内の企業などからも申し込みがあり出前講座が各方面に認知されてきています。また、学校の要望を受け職員講演など特別メニューを6回実施しました。市民の要望に迅速に応えた点、そして普通講座を新たに4講座、ボランティア講師による講座を3講座追加できた点が成果として挙げられます。	
課題	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和3年度の受講者数1,549名に対して、令和4年度の受講者数は微増したが、依然としてコロナ禍前の水準には達していないため、魅力ある講座の開発、人材を発掘し受講者数の回復が課題となっています。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	相馬市まちづくり出前講座の実施						
事業概要	市民などが主催する学習会に市職員や関係機関の職員及びボランティア市民講師が出向き、講座を実施しています。講座実施後は、講師からは「講座報告書」を、受講者からは「受講者アンケート」を提出してもらい、講座内容を検証しています。年1回程度、講座の担当課及びボランティア市民講師に講座の見直しを依頼し、内容を更新しています。ボランティア市民講師については年間を通して募集し、随時追加しています。						
評価年度の取り組み	前年度2月にメニューの見直し、6月に生涯学習推進会議及び7月に生涯学習推進本部で事業内容の検証 4月 1日 「広報そうま」へ出前講座の掲載、HPへ掲示 出前講座の内容をまとめたリーフレットを作成し、公民館等へ配布しました。 通年 出前講座を実施しました。						
必要性 1～5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input checked="" type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	4	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和4年度決算額	42,075円
						令和3年度決算額	39,600円
達成度 1～5	4	現況数値 (平成27年度)	41件	目標値(令和4年度)	70件	実績値	60件

点検及び評価シート1

部門名	生涯学習	No	2	—	2
-----	------	----	---	---	---

大項目	青少年の健全育成活動の充実
施策名	非行防止活動の充実
構成する施策	青少年健全育成市民会議活動の充実
担当部署	生涯学習部 生涯学習課
施策の背景と目的	青少年をとりまく環境は、少子化、核家族化、高度情報化、家庭や地域教育力の低下、そして、東日本大震災の影響により大きく変化しています。青少年健全育成市民会議では、地域や関係団体等と連携し、青少年の心と身体の健全な育成を図り、非行防止策を推進することを目的として事業に取り組んでいます。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	市内30地区で青少年健全育成のための活動が行われ、家庭や地域のふれあいを深める取り組みを推進しました。活動内容として、ウォーキング大会、クリスマス会、卒業入学祝い、通学路ゴミ拾いなどが開催されています。また、団体活動奨励金を交付し、親子レクリエーション、座禅会など各団体の健全育成活動を支援しています。申請団体数としては20団体から申請がありました。交付実績数は20団体でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により4団体が事業中止(奨励金全額返還)となりました。	
課題	新型コロナウイルスの影響により多くの団体で活動を自粛をしている状況が続いています。一度、休止してしまった活動を再開出来るよう、これまでコロナ禍で活動できた事例の紹介を広めていく必要があります。活動を休止している団体に個別の声かけや相談に応じるなど、コロナ前とは異なった活動内容でも再開できるようサポートが必要とされています。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	青少年健全育成市民会議事業								
事業概要	家庭・学校・地域などが連携し、青少年の成長を支える環境づくりを進めるため、各地区や青少年の健全育成を行う団体に対して補助金を交付することにより、地域での青少年健全育成への取り組みを支援しています。また、少年センターや相馬市子育て支援連絡会をはじめとした関係機関等と連携した非行防止活動や啓発活動を実施しています。								
評価年度の取り組み	令和4年度では、地区育成活動補助金として、30地区9,154世帯に960,340円、団体活動奨励金として16団体に1,178,322円を交付しています。その他、広報誌の発行、少年の主張相馬大会の開催、街頭啓発活動の実施及びみんなで子育てワイワイショップ(相馬市子育て支援連絡会主催)への参加等の活動を行いました。								
必要性 1～5	5	目的 緊急性 義務 要望・要請 適応性 類似・重複	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性 進捗管理 改善状況 将来性 情報提供 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	令和4年度決算額	2,424,576円
								令和3年度決算額	2,011,612円
達成度 1～5	4	現況数値 (平成27年度)	36団体	目標値(令和4年度)	36団体	実績値			16団体

点検及び評価シート1

部門名	生涯学習	No	2	-	3
大項目	生涯学習施設の充実				
施策名	公民館活動の推進				
構成する施策	地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進				
担当部署	生涯学習部 中央公民館				
施策の背景と目的	各公民館で実施している各種教室生の学習成果を発表する機会を設けることにより、学習意欲の高揚をはかるとともに、地域社会に対して、より開かれた公民館活動をめざす。 ①創作技能の向上を図る。②学習成果の喜びを分かち合うとともに教室生間や、市民との交流を促進する。③多くの市民に公民館事業への参加を呼びかける。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、飯豊公民館と山上公民館を除く市内7ヶ所(中央、東部、大野、磯部、日立木、八幡、玉野)の公民館で学習発表会を中止した。飯豊公民館と山上公民館では、踊りや歌の発表はせず、教室生が作成した作品の展示や各教室、地域団体の活動状況を書面により展示するなど規模を縮小して開催した。学習発表会を中止した公民館においても、代替事業として毎月市民に配布している「公民館だより」の特別号を作成し紙面による各教室の活動報告を実施したり、「ギャラリー」を設置して教室生が作成した作品を入れ替えをしながら展示をして、学習意欲を低下させないよう取り組んでいる。また、令和5年3月1日から4月7日までの期間、本庁の御仕法通り(ロビー)において、教室生の作品展示と各公民館の教室案内を掲示し、多くの市民や相馬市に新たに転入された方に公民館事業をPRする取り組みを初めて実施した。このことにより、教室に対する問い合わせや加入申し込みもあり、一定の成果があり、次年度以降も実施して行く。	
課題	令和5年5月8日から感染症法の改正により新型コロナウイルスが5類になり、令和5年度は引き続き感染予防対策は必要であると感じるものの、コロナ禍以前のような学習発表会が開催できていると考えている。しかしながら、大雨による水害があった令和元年度から開催できていない公民館が多く、学習発表会の開催を経験していない職員がほとんどのため、開催にあたり各公民館間での連携や協力が必要になる。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	学習発表会の充実と強化								
事業概要	公民館で実施している教室・講座で学習した内容の発表する場を設けて、学習意欲の高揚と、市民との交流を図る事業								
評価年度の取り組み	新型コロナウイルスの影響で9つある公民館のうち、「飯豊公民館」と「山上公民館」が展示物のみの学習発表会を実施した。 平成30年度 2,887人 → 令和元年度 1,187人 → 令和2年度 0人 → 令和3年度 736人 → 令和3年度 736人 → 令和4年度 860人となった。								
必要性 1~5	5	目的 緊急性 義務 要望・要請 適応性 類似・重複	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 進捗管理 改善状況 将来性 情報提供 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	令和4年度 決算額	0円
達成度 1~5	3	現況数値 (平成27年 度)	2,405人	目標値 (令和4年 度)	2,900人	実績値	860人	令和3年度 決算額	0円

点検及び評価シート1

部門名	生涯学習	No	2	—	4
-----	------	----	---	---	---

大項目	生涯学習施設の充実
施策名	公民館活動の推進
構成する施策	特色ある公民館活動の推進
担当部署	生涯学習部 中央公民館
施策の背景と目的	公民館は、地域住民が健康で明るく生きがいに満ちた豊かな地域づくりを目指せるよう、「教養」「生きがい」「健康」の大きく3つのテーマで教室等を運営するとともに、各地域ごとの実情と住民ニーズに対応した特色ある教室や企画講座の活動を推進していきます。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	各公民館では、教養、生きがいづくり、健康づくりをテーマとした教室の開設以外に重点事業として位置づけた「特色ある事業」を展開しました。この特色ある事業については、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで実施した。参加者は3,637人(前年2,556人)(前年比142.3%)(前々年1,696人)となり、参加者が年々増加しており、着実にコロナ禍以前の参加者数に戻ってきているため、各公民館においての取り組みに対して、一定の成果はあったものと考えている。また、中央公民館が日頃の公民館活動が認められ、本市として初めて令和5年2月3日付で文部科学大臣から第75回優良公民館表彰を受けた。※人数はすべて、のべ人数です。	
課題	令和5年5月8日から感染症法の改正により新型コロナウイルスが5類になり、令和5年度は引き続き感染予防対策は必要であると感じるものの、コロナ禍以前のような公民館活動が実施できるものと考えている。公民館事業への参加者を増加させるため、講座等が市民にとって魅力あるものと感じられるような、前例踏襲にとらわれない企画の立案と、SNSを活用した積極的な情報発信が必要である。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	特色ある公民館活動の推進						
事業概要	各公民館で実施している、「教養」「生きがいづくり」「健康づくり」を目標とした各種教室・講座のほかに、各地域住民のニーズに応じていくためや地域の実情に合わせた事業を重点事業として位置づけし、各公民館毎に特色のある公民館活動を推進している。また、公民館の利用促進とコロナ禍における孤独防止と認知症予防対策として、公民館で主催する企画講座等に運転免許証を返納した交通手段のない高齢者を自宅から公民館まで送迎する取り組みを令和3年10月から実施している。(令和4年度の利用者67人、前年16人)また、講座の参加者募集にSNS(市公式LINE、Twitter)を積極的に活用し、幅広い世代に情報を発信した。実際にSNSを閲覧して講座を申し込んだ市民もあり、取り組みの成果が出ている。						
評価年度の取り組み	令和4年度の各公民館における特色ある公民館事業の主なものとして、東部:そば打ち教室118人→114人、子ども英語教室新規18人、大野:サマースクール再開86人、行政区長杯パークゴルフ大会92人→93人。飯豊:ハゼッ子(子ども)教室71人→108人、美文字教室18人→16人。八幡:化石探検教室44人→33人、そばうどん打ち教室64人→49人。日立木:三代交流事業中止→中止、すみれ(高齢者)学級102人→110人。山上:里山ハイキング70人→78人、eスポーツ教室新規講座20人。磯部:いそべ絆教室21人→11人、相続講座6人→16人。玉野:料理教室新規27人、相続講座9人→11人。中央:バリスタ珈琲講座14人→101人、子ども教室65人→141人、相馬報徳講座85人→80人、相馬のお魚料理講座新規25人が参加していただいた。また、令和4年度の重点施策として、民間企業の協力を得て全公民館において、スマホ教室を開催した。市民の人気も高く、参加者は常に定員がいっぱいとなった。69人→233人						
必要性 1~5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和4年度 決算額 1,314,000円 令和3年度 決算額 996,000円	
達成度 1~5	3	現況数値(平成27年度)	—	目標値(令和4年度)	—	実績値	

点検及び評価シート 1

部門名	文化	No	3	-	1
-----	----	----	---	---	---

大項目	芸術文化の振興
施策名	芸術文化活動の促進
構成する施策	音楽の郷づくり事業の推進
担当部署	生涯学習部 生涯学習課
施策の背景と目的	日常から身近に音楽に触れ、豊かな感性を育み、潤いのある生活を送るため、広く市民が生音楽に親しむ機会を創るとともに、音楽大学生や若い音楽家、プロの音楽家を目指している方等に演奏する場を提供し演奏家の育成に努め、「音楽の息づく街」として内外にアピールし、文化的な交流を増やすことにより地域活性化を目指します。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	令和4年度は、5回の演奏会を計画通り実施することができました。 また、SNSを活用したコンサートの周知や、オンライン申込の受付を開始し、参加者の利便性を図りました。 9月17日のコンサートでは、相馬市出身の尺八奏者である中島麗氏を迎え、多くの市民が来場しました。	
課題	新型コロナウイルス感染症の影響から演奏会を計画どおりに提供できていません。スタッフの高齢化が進み、今後の「そうま音楽夢工房」の活動を担う人材の確保が必要となっています。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	そうま音楽夢工房コンサートの実施								
事業概要	より多くの人に来場していただき、広く市民が音楽に親しむ機会を創るとともに、音楽を通じた心の癒しや、音楽の力で多くの人を勇気づけることを目指します。								
評価年度の取り組み	令和4年度は演奏会を5回実施。多くの市民等に生の演奏を提供できました。 4月29日 ピアノソロコンサート～春の本格クラシック～【36名】 6月25日 パーカッションリサイタルinそうま 悪原至ウィズフレンズ【79名】 9月 3日 前川 健生テノールコンサート 情熱の響きにのせて【88名】 9月17日 中島 麗 尺八リサイタルinそうま【168名】 2月25日 Quartet DONKA ～春の訪れコンサート～【139名】								
必要性 1～5	5	目的	<input checked="" type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性	<input checked="" type="checkbox"/>	令和4年度決算額	1,833,726円
		緊急性	<input checked="" type="checkbox"/>			改善状況	<input checked="" type="checkbox"/>	令和3年度決算額	886,338円
		義務	<input type="checkbox"/>			将来性	<input checked="" type="checkbox"/>		
		要望・要請	<input checked="" type="checkbox"/>			情報提供	<input type="checkbox"/>		
		適応性	<input checked="" type="checkbox"/>			効率性	<input type="checkbox"/>		
		類似・重複	<input type="checkbox"/>						
達成度 1～5	4	現況数値 (平成27年度)	400	目標値(令和4年度)	400	実績値	510人		

点検及び評価シート1

部門名 文化		No	3	—	2
大項目	文化財の保存・活用				
施策名	歴史的伝統文化の保存伝承				
構成する施策	相馬市史編さんの実施				
担当部署	生涯学習部 生涯学習課				
施策の背景と目的	市史編さん事業は、市制50周年(H16.3.31)を記念し、本市のいにしえをたずね、新しい相馬市づくりに寄与するため、古くは縄文以前に遡る本市の長い歴史や文化、現代に引き継がれた豊かな自然等に関して調査・研究を進めることを目的として事業を開始しました。その成果をまとめて市民に提供することにより、市の文化振興に役立てていきます。さらには、市民が郷土の歴史や文化を学び、郷土の現状を正しく把握し、市民としての自覚を高め、将来に向け市政発展の精神的基盤をつくることを目的としています。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	『相馬市史』の刊行に向けた編さん作業(原稿執筆/編集・校正等)を中心に実施しました(販売実績=新市史63冊、旧市史2冊、史料所在調査報告書0冊、衆臣家譜約14冊【コピー8部】)。『原始・古代・中世 通史編』『原始・古代・中世 補遺』の構成(3校)を実施中。蓄積された知識・情報を活かし、市内外からの相馬の歴史等に関する問い合わせに応じた資料提供など、円滑に対応した。	
課題	『近世 通史編』において、月1回から2回程度オンラインでの近世部会を開催し、執筆者と密に連絡を取りながら進捗状況の管理に努めていますが、執筆者からの原稿提出や校正ゲラの返却が遅くなりがちで、進捗に遅延が認められる。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	相馬市史編さんの実施						
事業概要	『相馬市史』の刊行(平成24～令和6年度に全10冊刊行予定)*その他に年表も刊行する。 ・平成24年度『相馬市史第6巻資料編Ⅲ近世2』 ・平成26年度『相馬市史第4巻資料編Ⅰ 原始・古代』『相馬市史第8巻特別編Ⅰ 自然』 ・平成29年度『相馬市史第9巻特別編Ⅱ 民俗』『相馬市史第7巻資料編Ⅳ 近代・現代』 ・令和2年度『相馬市史第4巻資料編Ⅰ 中世』『相馬市史第5巻資料編Ⅱ/近世1』 ・令和3年度『相馬市史第3巻通史編Ⅲ/近代・現代』 ・令和4年度『相馬市史第1巻通史編Ⅰ/原始・古代・中世』『相馬市年表』 ・令和5年度『相馬市史第2巻通史編Ⅱ/近世』						
評価年度の取り組み	編さん委員会・専門委員会・各部会(会議及び調査)の開催、個人調査の外、 ・近代・現代:『相馬市史第3巻通史編Ⅲ近代・現代』編さん作業後、刊行 ・原始・古代・中世:『相馬市史第1巻通史編Ⅰ 原始・古代・中世』編さん作業(構成案の協議/原稿執筆/校正) ・近世:『相馬市史第2巻通史編Ⅱ 近世』編さん作業(構成案の協議/原稿執筆/校正)						
必要性 1～5	4	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input checked="" type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	4	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和4年度 決算額 12,439,551円 令和3年度 決算額 6,448,836円	
達成度 1～5	3	現況数値 (平成27年度)	—	目標値(令和4年度)	—	実績値	—

点検及び評価シート1

部門名	文化	No	3	—	3
大項目	文化施設の充実				
施策名	市民会館の利活用促進				
構成する施策	市民の文化振興の拠点、利活用促進				
担当部署	生涯学習部 市民会館				
施策の背景と目的	市民の文化振興の拠点として、適正な管理運営に努めながら、施設の利活用促進を図ります。また、利用者が安全に安心して施設を利用できるよう、施設の適正な維持管理に努めます。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	<ul style="list-style-type: none"> 市民会館では、市のホームページや広報紙に主要イベントを掲載するとともに、市内の公共施設等にパンフレットを配置し利用者に配布するなど広報活動に努めました。 コロナ禍による利用者数減を見込み、年間利用者数の目標を27,000人と引き下げたことと、利活用のPRに努めたことから年間利用者数46,191人と目標値を達成することができました。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため『相馬市民会館感染拡大予防ガイドライン』を策定し、利用者に理解をいただきながら、安全に安心して市民会館を利用いただきました。 	
課題	コロナ禍において、市民会館利用時の新型コロナウイルス感染症対策に関する事前打合せの実施や、徹底した感染症拡大防止対策を実施することで、市民会館が安心して利用できることをホームページ等を通じて知っていただき、利活用促進に結び付ける。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	市民会館の利活用促進						
事業概要	①広報そうま、市ホームページ、地域情報誌、会館内外の掲示板、市役所のインフォメーション、市内各公民館に市民会館の予定表や主なイベントのポスター等の掲示を行い、利活用のPRに努めました。 ②市民会館主催の自主事業を実施しました。						
評価年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 『地域情報誌いんぷお』や『シティ情報ふくしま』などの地域情報誌に市民会館のイベントを掲載し、新たな利用者の開拓に努めました。 市民会館自主事業として、5月24日に未来への「志」づくり事業講演会を市内高校の1年生を対象とし、ゴルゴ松本氏を講師に招き実施しました。また、6月5日には、NHKとの共同開催により小学生向けの公開収録「わたたまドッカーン」を実施しました。 						
必要性1~5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input checked="" type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性1~5	4	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和4年度決算額	59,744,029円
						令和3年度決算額	55,673,358円
達成度1~5	4	現況数値(平成27年度)	53,264人	目標値(令和4年度)	27,000人	実績値	46,191人

点検及び評価シート1

部門名	文化	No	3	—	4
大項目	文化財の保存・活用				
施策名	歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催				
構成する施策	常設展・企画展の開催				
担当部署	生涯学習部 生涯学習課				
施策の背景と目的	平成26年7月に開館した歴史資料収蔵館において、常設展と企画展を開催することで、市民や市外からの来訪者が相馬市の歴史文化に親しめる場とします。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	令和3年2月13日発生の福島県沖地震の影響により、同年2月14日より休館となる。休館中は、館蔵品(文献史料などの古文書)の被災状況確認作業を実施。今後の企画展において、紹介すべき史料などの掘り起こし作業を実施するに至った。 完成を前に、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震の影響により、再度復旧工事を実施することとなる。そのため、未整理の古文書の整理を実施。	
課題	令和3年2月13日発生の福島県沖地震により、被災し復旧中に発生した令和4年3月16日の福島県沖地震により、さらに被災状況が甚大化し、復旧が遅延した。施設の再開が約1年先送りとなり、本来の施設の目的を果たすことはできなかったが、やむを得ないものと考えられる。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催						
事業概要	常設展では、出土遺物や甲冑、古文書などの展示資料から構成される通史(原始～近世)や佐藤玄々(朝山)、相馬駒焼、御仕法(二宮仕法)、相馬民謡などを写真パネルやグラフィックも含め紹介。 当館に収蔵される資料を用い、年2回の企画展を開催。さらに、収蔵資料をテーマとした講演会なども適宜実施。						
評価年度の取り組み	通常開館が困難あるものの、今後展示する一般展示資料の精査や今後、事業展開を行う企画展に向けた資料の精査を実施するとともに、古文書をデータベース化するための基礎整理として、目録作成を実施。約6,300点の古文書(海東家文書)について目録整理を行った。						
必要性 1～5	3	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input checked="" type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複	有効性 1～5	3	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性	令和4年度 決算額	3,524,381円
						令和3年度 決算額	13,145,976円
達成度 1～5	3	現況数値 (平成27年度)	3,816人	目標値(令和4年度)	4,000人	実績値	0人

点検及び評価シート 1

部門名 体育・スポーツ

No 4 - 1

大項目	生涯スポーツの振興
施策名	生涯スポーツの振興
構成する施策	スポーツ少年団活動の充実
担当部署	生涯学習部生涯学習課
施策の背景と目的	震災後、子どもたちの運動不足による体力低下が懸念されている中、子どもたちの運動機会の充実を図るうえではスポーツ少年団の存在は重要です。教育委員会としてスポーツ少年団の魅力と必要性を強く発信し、スポーツ少年団活動の活性化とスポーツ環境の充実に努めます。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	<p>A 事業をさらに推進することが妥当</p> <p>B 事業を現状のまま継続することが妥当</p> <p>C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要</p> <p>D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要</p>
成果	<p>スポーツ少年団の登録数は令和3年度:29団体、480人から令和4年度:29団体、430人と50人が減少しました。</p> <p>令和4年度は、各種大会やイベントを開催しましたが、コロナの影響によって活動制限された期間の影響からか、団員数の増加は難しい状況です。</p>	
課題	<p>団数は同じだが団員数は減少している。新型コロナの影響がまだまだ大きく残っているようで各団ともに団員の確保に向けて努力している状況。</p> <p>各種大会やイベントは、各スポーツ少年団の目標であることを踏まえ、できる限り各関係者、指導者と検討を重ねて、開催に向けた努力をすることが必要。</p>	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事務事業名	スポーツ少年団活動の充実						
事業概要	スポーツ少年団の結団式の開催は見送りましたが、市主催の歩け歩け大会や子ども駅伝などを開催しました。また、各スポーツ団体も開催方法を工夫してイベントや大会を実施しました。						
評価年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年3月スポーツ少年団育成助成金事業 9競技団体 85,000円交付 ・R5年3月6日 指導者講習会(体幹トレーニング) 24名参加 						
必要性 1～5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和4年度決算額	181,000円
						令和3年度決算額	206,000円
達成度 1～5	3	現況数値(平成27年度)	706人	目標値(令和4年度)	730人	実績値	430人

各部門別評価対象事務事業一覧

		評価			
		必要性	有効性	達成度	総合評価
部門名	学校教育				
施策名	確かな学力の育成				
事務事業名	学力向上推進事業	5	5	4	A
施策名	豊かな心の育成と生徒指導の充実				
事務事業名	心のケア事業	5	5	4	A
施策名	学校施設等の整備・充実				
事業名	老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施	5	5	5	A
部門名	生涯学習				
施策名	相馬市まちづくり出前講座の充実				
事務事業名	相馬市まちづくり出前講座の実施	5	4	4	B
施策名	青少年健全育成市民会議活動の充実				
事務事業名	青少年健全育成市民会議事業	5	5	4	B
施策名	地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進				
事務事業名	学習発表会の充実と強化	5	5	3	B
施策名	特色ある公民館活動の推進				
事務事業名	特色ある公民館活動の推進	5	5	3	A
施策名	図書資料等の充実と利用推進				
事務事業名	児童図書の収集	5	5	4	A
部門名	文化				
施策名	音楽の郷づくり事業の推進				
事務事業名	そうま音楽夢工房コンサートの実施	5	5	4	B
施策名	相馬市史編さんの実施				
事務事業名	相馬市史編さんの実施	4	4	3	B
施策名	市民の文化振興の拠点、利活用促進				
事務事業名	市民会館の利活用促進	5	4	4	B
施策名	常設展・企画展の開催				
事務事業名	歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催	3	3	3	B
部門名	体育・スポーツ				
施策名	スポーツ少年団活動の充実				
事務事業名	スポーツ少年団活動の充実	5	5	3	B

IV 教育委員の意見

点検及び評価(第1次評価)シートに基づき、教育委員4人による第2次評価を実施しました。

1 個別評価

【学校教育】

1-1 学校教育の充実[確かな学力の育成]

《事務事業;学力向上推進事業》

- 学校訪問で教師のRSの視点を意識した授業改善の工夫が確認でき、それが成果となって現れていることがわかります。
又、ICT 機器を利用した授業構成や資料の活用も説得力、理解力の向上に大いに寄与していると思われます。
これからの時代を生き抜くための確かな学力を身に付けさせる為に、今後もRSTと ICTの活用を相馬市の学校教育の両輪に位置づけ、さらに事業を推進していただきたいと思ひます。
- 新たに取り組んできたRSTの効果が、読解力の向上という結果に表れて大変喜ばしいことである。更に取り組みを強化し、通常の授業の中に落とし込んでいくことが、大切と思われる。また、課題の見られる算数・数学に関しても、今後新たな検討を加えていくこと必要と思われる。
- RSを続ける事でさまざまな分野に向上が見られた事はもちろんですが、課題となる問題点についても明確にできた事が良い点だと思います。飛ばし読みについては特に気になる所です。読む力をつけて、学習が楽しくなる効果も期待しています。
- RSを意識した授業により成果は確実な成果が出ているものと考えます。方針を変えることなく今後も進めて頂きたいと考えます。
また、RS という方針・ベクトルがあるために授業に関する相談など、先生同士のコミュニケーションも更に良くなってきているのではないかと推測します。

1-2 学校教育の充実[豊かな心の育成と生徒指導の充実]

《事務事業;心のケア事業》

- ▶ いじめの早期発見・早期対応や心のケアの為のキメ細かな組織的対応が図られており評価できます。コロナ禍の閉鎖的社会環境の中で、相馬市を始め全国的に不登校の児童生徒が増加しています。その原因が複雑なため、他機関とのさらなる連携の強化の必要性を感じます。
- ▶ 心のケア事業の地道な活動により、一人でも二人でも、好転に向かうように、努力を重ねることが、とても大切だと思います。また、不登校の要因が、複雑化しているなかで、なるべく早期に「こころのSOS」を発見し、学校から専門職、専門機関へとつなげていくことが、肝要と思われまます。
- ▶ 家庭環境に問題がある子どもがいる事は、本当に救っていかねばならない問題だと思っています。どうにもならない自分の環境の事で悩んで心が弱くなってしまった子どもは、声を上げる事ができない立場です。学校の対応としては、まず気づいてあげる事だと思っています。クラス全体の子どもたちに「周りの子に変化はないか？先生に話してみたい事はないか？」など問いかけてみる、など。自分の子の変化に気づけず、周りの保護者から知らされるケースはあることです。
- ▶ QU アンケート結果については前年度のとの比較も行いながら、クラスをより良い方向に導いてください。不登校対策等は根気が必要となりますが、引き続き対応よろしくお願ひします。やはり家庭への働きかけは不可欠ですので、周りを巻き込みながら対応願ひします。

1-3 教育環境の充実[学校施設の整備・充実]

《事務事業;老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施》

- ▶ 各地で地震が頻発しているのので、耐震化対策、老朽化した校舎の改修事業が計画通り完了し安全性が確保できて安心しています。令和4年3月16日の地震でずれた中村二中の校舎屋根の復旧工事が、例を見ない事例だけに十分に安全を確保しながらスムーズに進行できることを願ひます。
- ▶ 老朽化した校舎、設備等の改築・改修事業は、計画した大きいものは、令和2年度中に完了したとのことだが、令和4年の地震により被災した災害復旧工事を速やかに推し進め、幼稚園、小学校の老朽化した遊具の撤去、修繕、更新も計画的に進めていきたい。
- ▶ 学校施設については地震被害対応も含め、計画的に行っていただいていると考えます。しかしながら、地震、大雨等による土砂崩れ、倒木なども考えられますので、通学路も含め点検していただけると安心だと思います。

【生涯学習】

2-1 生涯学習推進体制の充実[相馬市まちづくり出前講座の充実]

《事務事業;相馬市まちづくり出前講座の実施》

- ▶ コロナ禍で、新たに7講座追加できたことは高く評価できると思います。
コロナ感染拡大防止のために、研修や講座の方法も様変わりしてきました。
受講者の便宜や拡大を図るためにも、今後は対面開催だけでなくハイブリッド形式の開催も検討してみたいと思います。
- ▶ 魅力ある講座の開発、人材の発掘のためもう少し予算を増やし、有料の講師の選定も考慮していく必要があると思います。
- ▶ コロナの影響がある中でボランティア講師講座が増えた事も受講者が増えた事も、市民の気持ちが前向きであるからだと感じます。私も昨年植物についてお話しする機会を頂きましたが、体験型に限らず聞くだけの講座でこんなに喜んでもらえるんだな、と自分の小さな知識が市民に少しでも役に立てたと思えてうれしくなりました。知りたい事も小さな事にも目を向けて、ボランティア講師の発掘はとても身近なテーマを置くと良いような気がします。
- ▶ 新たな講座が増えたり、コロナ対策中の講座実施で前年より参加者が増えたりしているのは事務局の努力の成果と考えます。来年度はコロナ前の水準を目標に実施願いたい。

2-2 青少年の健全育成活動の充実[青少年健全育成市民会議活動の充実]

《事務事業;青少年健全育成市民会議事業》

- ▶ 青少年の健全育成を充実させる為にも、コロナで事業中止となった団体が早期に再開できるようサポートが必要かと思っています。
- ▶ 青少年健全育成事業に関しても人手の不足、高齢化といった現状があると思われる。
青少年育成活動の一層の拡充を図るためには、一人でも多くの方に青少年育成活動に関心を持っていただくとともに、多様な担い手の裾野を広げていくことが重要と思われる。
- ▶ コロナの影響により全地区で行えなかったことは残念ですが、今年度は自粛していた団体が行えるようにフォロー願います。まず、どんな小さな行事でも行うことが大切かと思っています。

2-3 生涯学習施設の充実[地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進]

《事務事業;学習発表会の充実と強化》

- 市役所ご仕法通りの作品展示はとても良かったと思います。次年度からも継続してほしいと思います。
学習発表会の開催にはいろいろご苦労もあるとは思いますが、少しずつコロナ前に戻るようにつとめていただくことをお願いしたいです。
- 学習発表会は、学習意欲の向上あるいは、市民との交流を図る大事な機会と考えます。開催にあたり、各公民館の連携、協力が、必要と考えます。
- 学習発表会には何度かおじゃましましたが、思っていた以上の熱量というか特に年配者が楽しそうにイキイキされているのが印象的でした。この日の為に張りきって段取りしたことや、家族や友人を招待して皆で集まる事が本当にうれしいのだな、と活力を感じて、地域づくりや世代を超えた交流の場として無くてはいけないと思っています。課題にあった理由がとても残念で協力して何とかできないかと願っています。
- 公民館に限らず、市役所での展示等工夫が見られたと思います。コロナ前のレベルに戻すことは大変かと思いますが、発表の機会づくりをお願いします。

2-4 生涯学習施設の充実「特色ある公民館活動の推進」

《事務事業;特色ある公民館活動の推進》

- 第75回優良公民館表彰おめでとうございます。
公民館ごとに特色ある事業の開催や、いろいろ考えられたメニューも豊富で、地域住民のニーズに応えていると思います。
高齢者の送迎やSNSでの情報発信等、細かな配慮も嬉しいです。
- コロナ後の公民館活動として、新たな生涯学習事業に関しても期待したいところである。また、中央公民館が、第75回優良公民館表彰を受けたことは、非常に喜ばしいことである。
- 優良公民館表彰おめでとうございます。日頃の公民館の方々の活動の成果がこうして現れたと思います。
活動の参加人員も確実に戻りつつあり、また、SNSなど新たな取り組みもあり今年度の活動がさらに楽しみです。
- コロナ禍と地震の影響により実施できない教室がある中で、趣向を凝らして取り組んできたことが優良公民館表彰というかたちで実を結んだことを大変意義のあるものと評価します。
新型コロナウイルスの感染対策を引き続き徹底しつつ、今後とも、市民のニーズに沿った教室の開催に努めてもらいたい。

2-5 図書館機能の充実[図書資料等の充実と利用推進]

《事務事業;児童図書の収集》

- 「相馬市名誉市民紹介」のコーナーができて良かったです。蔵書も増え、図書の配置も工夫されている様子がわかります。また、読書スペースも拡大されて市民が利用しやすくなってきています。
- ステップアップ計画に基づき、幼児期の読み聞かせを中心に児童図書にターゲットを絞り重点的に図書を収集しているのは、非常に有用なことと思います。
- 幼児期の読み聞かせが将来の読書習慣に繋がることを、広く保護者にアピールする文言をコーナーに掲げるなどはどうでしょうか。私も子供に絵本を読んだ事は今とても良い思い出になっていて、もっと時間をとればよかったと後悔しました。
若い保護者へ子供とのコミュニケーションツールとしてとても良い事を広く知ってほしいです。
- 計画的に図書館の充実が進められているものと思います。引き続き計画的に予算確保しながら図書の充実を進めて下さい。

【文化】

3-1 芸術文化の振興[音楽の郷づくり事業の推進]

《事務事業;そうま音楽夢工房コンサートの実施》

- ▶ 今年度は計画通り演奏会が5回実施できて良かったと思います。
市内でいろいろなジャンルの音楽や相馬市出身の音楽家の生演奏を聴くことができるのは市民にとってとても嬉しい事業だと思います。
このような夢のある事業がこれからも長く続けられるように「そうま音楽夢工房」の人材確保が急務だと思います。(参加者全員に人材募集のチラシを配布したらどうでしょうか)
- ▶ 小学生、中学生、高校生までの、ブラスバンド関係の生徒に無料の入場券を配布してはどうか?小さい頃から音楽に親しむ習慣により音楽の郷づくりの事業も活性化していくものとする。
- ▶ 人材確保など課題はあるかと思いますが、市民が直接音楽に触れる良い機会と考えます。今年度も演奏会の実施をお願いします。

3-2 文化財の保存・活用[相馬市史編さんの実施]

《事務事業;相馬市史編さんの実施》

- ▶ 相馬市にとり大変重要な事業の一つですので、令和6年度まであと残り2冊の完成を心より期待します。
- ▶ 長い月日をかけて真心を込めて相馬市の歴史を後世に残そうとして下さっている執筆者の先生がたのご尽力を思う時、この膨大な史実を市民に解り易く伝えていくのが私たちの役割ではないかと思います。市民とりわけ若い世代が理解しやすいような形で(例えばダイジェスト版の発行)語り伝える方法も検討する時期にきているように思えます。
- ▶ 相馬市史編さんは、これまでの発行物を見ても非常に素晴らしいものが出来上がっているとします。進捗に遅延がみられるとのことだが、執筆者の高齢化と、これまでの成果を考慮すると、やむを得ないところもある。
- ▶ 事務局のご苦勞も多いかと思いますが、相馬市として大切な事業であり、今後のために残さなければならないものと考えます。引き続き進めて頂くようお願いいたします。

3-3 文化施設の充実[市民の文化振興の拠点、利活用促進]

《事務事業;市民会館の利活用促進》

- 市民会館独自の自主事業や積極的な広報活動の成果が年間利用者によく現れていると思います。(最近では市民会館の駐車場が混んでいる光景をよく目にします。)　　コロナの収まりつつある状況の中、これからさらに市民が足を運ぶ機会を創造して、利活用の促進につなげて欲しいと思います。
- 様々な方法を講じて市民会館の利活用をPRしていく必要があると思います。
- 年間利用者数も目標も達成するなど、成果が表れていたと思います。コロナ対策もひと段落したと思いますので新たな自主事業も検討願います。
- 市民会館の自主事業や各種イベント情報を市のホームページや広報紙に載せ、市民に広く知ってもらい取り組みにより、利用者数の回復につながったものと考えます。引き続き利活用促進につながる事業を行ってください。

3-4 文化財の保存・活用[常設展・企画展の開催]

《事務事業;歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催》

- 閉館中、通常できない一般展示資料や企画展に向けた資料の精査、古文書の目録整理が行えてよかったと思います。　　再開の時には、「特別企画展」のような特別な催し物を是非行って欲しいと思います。
- 早期に復旧工事を終えて、再開していただきたい。　　なお、他県と同規模の展示館等を参考にして、展示方法も考えていきたい。
- 地震の影響による休館はやむを得ないとする。展示品は貴重なものが多いと考えますが、場所を変えて(市役所・千客万来館等)の展示を行うことができるものはないでしょうか。

【体育・スポーツ】

4-1 生涯スポーツの振興[スポーツ少年団活動の充実]

《事務事業;スポーツ少年団活動の充実》

- ▶ コロナの影響でイベントや大会が自粛されていまして、活動や団員数の減少は致しかたなく、今後コロナ前に戻るための支援が必要であると思います。
「歩け歩け大会」「子ども駅伝」などにも、広報活動や団員同士が声を掛け合って参加者を増やし、子どもたちの運動の機会の充実を図っていただきたいと思います。
- ▶ スポーツ少年団は、スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる意味では、とても大切なもので、今後部活動との関連性も増してくるものと思われるので、教育委員会としても積極的に、少年団と話し合う機会を持った方がよいのではないかと。
- ▶ 団員数の減少はやむを得ないところもありますが、スポーツの魅力発信のためにも行事・大会の開催をお願いします。

2 総合評価

- ▶ 「読解力向上のためのRST事業」、「未来への『志』づくり事業」、「子ども科学フェスティバル」等、コロナ禍前後から開始された事業ですが、コロナにもめげず、教育委員会、学校現場が一丸となって着々と確実に推進されており、今後の成果が大いに期待できます。
新聞や新聞コラムを利用した新聞活用事業と家庭学習との連携もでてきており、これからも継続が望まれます。
公民館活動・市民会館等の生涯学習分野でも独自の企画立案や積極的な広報活動により利用者の増加に努めていることに活気を感じます。また、図書館の蔵書の購入も増えており、限られたスペースを上手に使う工夫もなされるなど、利用者の立場にたち図書館利用促進に努めていると思います。
- ▶ 総合評価としては、ほとんどの事業においてAまたはBと判定され、各事業担当において着実に事務・事業執行の努力がなされており、成果をあげていると評価されました。
ただ、ほとんどの事業が継続事業で、事業実現のためのコスト削減や、提言案などについて優先度を考慮しながら、改革意識を持って取り組んでいかなければなりません。
更に、客観的な状況分析を行いながら、教育施策の確実な実現と事業効果の向上のため、より効果的な教育行政の運営が図られるよう努力していただきたい。
- ▶ 日頃より学校教育・生涯学習のキーマンとしての活動ありがとうございます。
コロナも5類になり、コロナ前の状況に戻つつあります。各学校・団体、指導者と連携をとり子供たちの学力向上、魅力ある相馬市づくりのために引き続きよろしくをお願いします。

V 学識経験者の意見

令和5年度（令和4年度対象）

「教育委員会の主な事務及び執行状況の点検及び評価」報告書に関する意見

福島大学人間発達文化学類 特別支援・生活科学コース 特任教授 柳沼 哲

【総括的意見】

令和4年度は、「相馬市教育振興基本計画2017」の最終年度にあたる今回の報告書は、「相馬市教育振興基本計画2023」への引継ぎを踏まえた大切な報告内容になります。

相馬市教育委員会では、教育振興基本計画に基づき、各施策において重点化を図りながら着実な取り組みを実施してきました。新型コロナウイルスの感染症拡大防止や福島県沖地震の影響を受けながらも、市内の児童生徒及び相馬市民のために事業を着実に進め、実績を積み重ねていることが報告書から読み取ることができます。教育委員会及び職員の方々の誠意と努力に敬意を表します。

「相馬市教育振興基本計画2017」は、コロナ禍や地震等の影響を受けながらも、その都度計画を修正しながら取り組みを進めてきました。毎年の検証と改善を図り、具体的な指標を用いた目標値を示し、定量的な評価と定性的な評価を組み合わせることで総合評価を行っていくことが重要です。次の「相馬市教育振興基本計画2023」にスムーズに引き継ぐことができるように、本報告書をもとにニーズに応じた積極的な運営に取り組まれることを期待します。

以下、具体的な意見を述べます。

1 【学校教育】

1-1 学校教育の充実「確かな学力の育成」

〔事務事業〕 学力向上推進事業

確かな学力を育み、児童生徒に基礎的な学力を身に付けさせ、確かな学力を育むことは、学校教育にとって重要です。学力向上策として「読解力」に重点をおいた継続した取り組みを実施してきたことは、全ての教科の学力向上に繋がることから評価できます。学力調査の結果では、国語科の言語文化に定着が見られた、読解力が向上した、という結果から、継続した取り組みの成果であると考えます。

今後は、RS（リーディングスキル）を意識した授業改善には、教師自身の論理的な思考と児童生徒の思考過程の相互関係が重要であり、そこが、本事業の本来の目的であると考えます。教員研修や児童生徒の学習意欲などの結果を成果として示すためには、定性的評価を設定し、改善に適切に結びつく改善プロセスを設定することが重要です。

1-2 学校教育の充実「豊かな心の育成と生徒指導の充実」

〔事務事業〕心のケア事業

心のケアは、教育活動全般に渡ったバランスの取れた指導として重要な視点です。主な3つの事業を中心にQUアンケートの実施や適応指導教室における取組から、相談件数の増加等の結果が見られ事業が適切に取り組み、成果に結びついていることが分かります。

不登校となる児童生徒の増加などの課題に対して、改善に適切に結びつけられているかどうかを、さらに検討が必要であると考えます。児童生徒の個々のニーズに合ったきめ細かな取り組みを、関係機関とどのように連携する必要があるのか、何が課題なのか、優先順位の高い内容は何か、などをコーディネートして進めていく必要があります。

1-3 教育環境の充実「学校施設の整備・充実」

〔事務事業〕老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施

児童生徒の安全・安心の確保のため、学校施設の管理は重要です。学校の改築、改修事業を計画通り実施したこと、老朽化した遊具の安全点検の実施は、評価できます。

安全点検で重要なことは、最新の安全基準をもとに基準を満たしているかどうかの適合の判断を厳格に行い、早急な対応策が適切に取り組みされているかどうか、ということです。定められている安全基準を満たしているかどうかの定量的な評価を示し、安全点検を継続して実施する必要があると考えます。

2【生涯学習】

2-1 生涯学習推進体制の充実「相馬市まちづくり出前講座の充実」

〔事務事業〕相馬市まちづくり出前講座の実施

2000名を超える市民の方々が出前講座を利用し、市民の教養の向上と学びの機会を提供できたこと、また、3講座を追加実施するなど新たな要望等を具現化したこと等、成果について評価します。

小・中学校や老人会、市内の企業などへの出前講座の認知度も高まり、今後、さらに市民のニーズを十分に把握した講座のメニューの検討と講座内容のブラッシュアップをする必要があります。

2-2 青少年の健全育成活動の充実「青少年健全育成市民会議活動の充実」

〔事務事業〕青少年健全育成市民会議事業

青少年の健全な育成のためには、地域の力が不可欠な状況になっています。家庭や地域のふれあいを深める取り組みに、今後も期待します。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により休止した多くの団体が、活動を再開できるように団体活動奨励金の交付を継続し、各団体への働き掛けを行う必要があります。コロナ禍以前の活動を再開する一方で、現在の青少年健全育成のためのニーズを把握し、青少年に寄り添った地道な取組から始めることが大切であると考えます。

2-3 生涯学習施設の充実「地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進」

〔事務事業〕 学習発表会の充実と強化

新型コロナウイルスの影響による中止が多い中、代替事業として作品展示を実施できたことを評価します。本事業の目的は、学習成果を直接発表することだけではなく、ギャラリーや紙面の発表に代えるなど、市民の発表に対する意欲を継続し、学習成果を発表することにより喜びを分かち合ったり、地域の交流を促進したりすることです。

何のために多くの市民へ公民館事業への参加を呼び掛けるのか、を大切にして、事業の改善に適切に取り組むことが必要です。

2-4 生涯学習施設の充実「特色ある公民館活動の推進」

〔事務事業〕 特色ある公民館活動の推進

第75回優良公民館の表彰は、日頃の公民館活動を継続してきた成果が評価されたと思います。また、公民館活動に参加する市民が着実に増加している点については、公民館活動の情報発信と公民館に移動手段を考慮した取り組みの成果と考えます。

「教養」、「生きがいづくり」、「健康づくり」のテーマについて、市民の参加人数や感想などをもとに、各公民館の地域のニーズに応じた改善に適切に取り組む、特色ある公民館活動に育てていくことが重要であると考えます。

2-5 図書館機能の充実「図書資料等の充実と利用推進」

〔事務事業〕 児童図書の収集

児童図書を重点的に収集、購入し、所蔵率の増加は評価できます。所蔵する書籍の利用促進のための広報活動は、その取り組みの評価を改善に適切に結びつけられているかを確認する必要があります。

前年度の評価を踏まえ、貸出数だけではなくイベントの感想や要望等の定性的な評価方法を取り入れていく工夫が必要です。また、児童生徒への貸し出し数や図書館利用数、市の図書館と学校図書館とのかかわりの強化等の取り組みを進め、市民のニーズに応じた特色ある図書館として情報基地としての図書館を位置づける必要があります。

3【文化】

3-1 芸術文化の振興「音楽の郷づくり事業の推進」

[事務事業] そうま音楽夢工房コンサートの実施

音楽の郷づくりとして、5回の演奏会を計画通りに実施し、500名を超える来場者を迎えることができたことを評価します。

市民が音楽に親しむ機会を広く設定し、また若い音楽家の発表の場を提供する本事業を継続していくために、課題となっている人材の確保について、運営の改善に適切に結びつけられているかどうかを検討する必要があります。今後も生演奏の魅力を継続して発信してほしいと考えます。

3-2 文化財の保存・活用「相馬市史編さんの実施」

[事務事業] 相馬市史編さんの実施

令和6年度全10冊刊行予定に向けた編さん作業の継続を評価します。市史の編さんは地道で正確な作業が求められ、進捗状況の管理にも労力をかける必要があります。

市の文化振興の要となる本事業は、後世に繋がる取組になるため、歴史に忠実な編さんを優先することと同時に、編さんの途中経過であっても市民への情報発信を示すことが必要な取り組みであると考えます。

3-3 文化施設の充実「市民の文化振興の拠点、利活用促進」

[事務事業] 市民会館の利活用促進

文化振興の拠点である市民会館の利用促進と適正な管理運営は、市民が文化に触れる機会を推進するための大切な事業です。年間利用者数の目標を達成したことと、情報発信の広報活動を強化に取り組んできたことは、評価できます。

今後は、利用した市民の満足度などの定性的な評価方法を取り入れることを検討し、市民のニーズに合う充実した文化振興に向けたイベント企画と情報の発信を行う必要があります。利用対象を絞った、ニーズに応じた企画など、柔軟な市民会館の利活用の検討を期待します。

3-4 文化財の保存・活用「常設展・企画展の開催」

[事務事業] 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催

施設の再開に向け、目録の作成や資料の掘り起こしなど地道な作業を継続して行うことが必要です。市民にとって、地震の被害によって施設の再開が先送りされた点は、理解されると考えます。

目録作成・整理やデータベース化などの取組の進捗状況や実施過程を公開するなど、市民へ向けた広報活動を行うなど、開館を待つ市民のニーズを把握した対応策を検討する必

があります。

4【体育・スポーツ】

4-1 生涯スポーツの振興「スポーツ少年団活動の充実」

[事務事業] スポーツ少年団活動の充実

スポーツ少年団の登録者数の減少という状況に対して、事業改善の対策に適切に取り組んでいるかどうかを、どのように評価するのか考える必要があります。各大会の開催方法や関連イベントなどこれまでの成果を土台に、スポーツ少年団の魅力や必要性が伝わっているのかどうか現状を的確に把握する必要があります。

子どもたちの運動機会の充実が本事業の目的であれば、各種大会やイベントの実施運営の改善が、適切に改善に結びつけられているかどうかを評価していくことが重要です。

令和5年度（令和4年度対象）

「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検及び評価」報告書に関する意見

福島大学人間発達文化学類 附属学校臨床支援センター 特任教授 高野 孝男

【総括的意見】

令和4年度相馬市教育委員会の教育行政の取組は、令和4年度を「相馬市教育振興基本計画2017」推進の最終年度の集大成としての意気込みが感じられる。コロナ禍以前の教育活動の再生や充実を目指し、本市教育委員会及び職員の皆様が総結集して「教育振興基本計画」に則り、「安全・安心」を最優先に掲げ、児童・生徒及び市民のために教育事務事業を確実に取り組まれてきた姿勢に改めて敬意を表したい。

相馬市総合計画「相馬市マスタープラン2017」に基づく「教育振興基本計画」の中で、基本理念「地域づくりを支え、心豊かに力強く生き抜くひとづくり」のもと、本市教育委員会は、コロナ禍や2度の福島県沖地震の被害をも乗り越えながら、学校教育、生涯学習、文化、体育・スポーツの4つの分野で具体的な施策の具現化へ向け、一貫性を持って計画的・持続的に教育課題解決に取り組んでいる。

今回の「教育事務点検評価」の意義は、「点検及び評価シート」により、PDCAサイクルを生かした令和4年度の反省・改善と「相馬市教育振興基本計画2017」の総括的な反省・改善という意味も含まれている。その意味で今回の反省や改善策について根拠や理由を明確にして、次へ繋げることができるように取組やその改善策の理由について情報を共有し、組織や関係者に浸透させることが重要な責務であると考えます。

また、担当職員、担当部署の「必要性」「有効性」「達成度」（「実績値」「目標値」）からの現況を振り返り、量や数値に焦点を当てた定量的評価で終わらせるのではなく、「組織的な浸透、展開、広がり」という組織的な対応や「創意工夫」「本気度」が分かる定性的評価としての納得解が生まれる話合いや改善が図られるような振り返りにすることが大切である。

今回の「教育事務点検評価」結果が、次年度の新教育振興基本計画策定や事業運営に大いに反映されることを期待したい。

以下、具体的な意見を述べる。

1 【学校教育】

1-1 学校教育の充実『確かな学力の育成』

[事務事業] 学力向上推進事業

予測不可能な時代において、将来を見据えた確かな学力の育成、定着のための具体性のある取組として、RST（リーディングスキルテスト）を有効に活用し、対象学年を5、6年生に広げ、実施時期を前年度より早め6、7月として、RSの視点を大切にした授業改善に取り組み結果を出すことができた事は大きな成果と言える。しかし、二次評価者からも指摘されているように、全国学力・学習状況調査の課題である算数・数学、「複数の情報や資料を読み取り活用する力」、RSTの結果から「指示代名詞が指すものを捉える力」「飛ばし読みの傾向」等の課題に対して、さらに確かな力を身につける方策も必要ではないかと考える。

今後、本事業の成果としてあげている「読解力の向上」「図やグラフから分かる文章と結びつけて内容を考えたり言葉の定義を理解したりできた」力を他の学習の場面でも生かせるようにすることが急務であると考え。さらに、なぜ児童生徒一人一人の理解力、読解力が向上したのか丁寧な分析と、結果をどのように各学校で組織的に授業に生かし改善を図っているのか共有することが重要なポイントであると考え。その意味でも「相馬メソッド」を基にした授業改善、実践資料のデータベース化は、大いに可能性を秘めた有効な取組と言える。

今後もRSの視点の授業改善とICT機器の効果的な活用、思考過程の見える化等の共通の手立てにより、個別最適な学びの日常の実践を一層積み重ねてほしい。

1-2 学校教育の充実『豊かな心の育成と生徒指導の充実』

〔事務事業〕心のケア事業

「いじめ・不登校」等の予防的・積極的な生徒指導対応策として「QUアンケート」を毎年実施し、その具体的な活用方法について、訪問指導や研修会等を行い、よりよい学級・学校づくりに生かせるように指導し、一人一人の児童生徒の自己肯定感や満足感を高め成果を上げていることを大いに評価したい。

さらに、適応教室の丁寧な取組より実績や好結果を生んでいることが素晴らしい。また、「相馬フォロアチームによるカウンセリング業務」「スクールソーシャルワーカー配置事業」「メンタルヘルスサポート事業」により、児童生徒、保護者へ寄り添い誰一人見捨てない教育を展開し着実に成果をあげていることは、高く評価できるものである。

今後も教育、医療、福祉等の各分野や関係機関と連携を図った「チーム」での取組や定期的な情報共有を行い、継続的な取り組みを推進していくことを期待したい。

1-3 教育環境の充実『学校施設の整備・充実』

〔事務事業〕老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施

学校施設が担う責務として、児童生徒の学び・生活の場であり、地区の防災拠点としての役割も担っていることを再確認したい。だからこそ、「安全・安心」な教育環境づくりに向け、スピード感のある計画的、継続的な事業推進が求められる。昨年度同様今回も、達成度「5」の評価であり、安全点検で危険遊具の指定を受けた幼稚園、小学校の遊具を全て撤去

したことや現在の安全基準に適合しているか判断しながら実施している点においても評価は妥当であると考える。

本事業では、令和4年3月16日の福島県沖地震の被災に係る学校施設の本復旧工事に着実に着手することができているが、校舎の老朽化対策については、児童生徒数の動向を踏まえた小中学校の統廃合や学区の見直しも検討しながら、財政的な見地からも踏まえ中・長期的なビジョンを基にした計画的な施設の整備・充実を期待するものである。

今後も予算の確保、日程調整等の面で難しい判断が迫られるが、「安全・安心」の観点から最優先課題として着実に事業に取り組むことにより、教育環境の充実を図ってほしい。

2【生涯学習】

2-1 生涯学習推進体制の充実『相馬市まちづくり出前講座の充実』

【事務事業】相馬市まちづくり出前講座の実施

市民の教養の向上と学びの機会として、コロナ禍以前の水準を目標値に掲げ事業を推進しようとする気概が感じられ、その結果が昨年度よりも570名増と数値にも表れている。さらに、学校の要望に応えた特別メニューやボランティア市民講師等による普通講座の開催数も増え、ニーズに応えた講座の開催は大いに評価できるものである。

今後も、数値目標も大切ではあるものの市民目線に立った「受講者のニーズ」に応えた魅力的な講座にしていく工夫が求められている。さらに、本事業の理念や目的とする市職員や関係機関の職員ばかりでなく、ボランティア市民講師が活躍できる、市民と共に一体的に推進するウェルビーイングの「相馬市ならではのまちづくり出前講座」となって一層発展していくことを大いに期待したい。

2-2 青少年の健全育成活動の充実『青少年健全育成市民会議活動の充実』

【事務事業】青少年健全育成市民会議事業

今般の青少年を巡る社会の中で起こっている出来事から鑑みても、青少年の心と身体の健全な成長を支え、非行防止策としての本事業の取組は、大変意義深く、重要であると考えられる。今年度はコロナ禍においても、20団体から活動奨励金の申請、16団体での健全育成活動の実施、広報誌発行や少年の主張相馬大会の開催、みんなで子育てわいわいショップの参加等、着実な取組は評価できる。

今後もコロナ禍を理由に活動を自粛している団体に対して目指す方向性、地域の役割、現状でできること等を丁寧に聞き取り、団体の抱える困り感に応じたサポートにより、青少年健全育成活動を活性化させていく取組を期待したい。

2-3 生涯学習施設の充実『地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進』

【事務事業】学習発表会の充実と強化

今年度もコロナ禍の影響により、2カ所の公民館以外は学習発表会が中止となり、一昨年度から引き続き達成度は「3」の評価となっているが、実績値としては130名の増加が見られる。さらに、代替え事業として、公民館だよりの特別号の掲載や本庁「御仕法通り（ロビー）」で公民館事業をPRした積極的な取組が見られる等、学習意欲の高揚と市民に開かれた公民館活動の取組は、大いに評価できるものとする。

今後は、コロナ禍以前の学習発表会の姿を目標としながらも、公民館間の連携を推進しながら、事業実施の在り方、運営方法の工夫等により、地域住民の理解と協力を得ながら事業を推進していくことが望まれる。

2-4 生涯学習施設の充実『特色ある公民館活動の推進』

[事務事業] 特色ある公民館活動の推進

日頃の実績と着実な取組が認められ、「第75回優良公民館」として、文部科学大臣から表彰を受けたことは市民にとっても一番の誇りであり喜びとなる出来事である。特に、SNSや広報活動の充実により、特色ある事業に感染対策を講じて実施し、実績値が前年比の142.3%を達成でき着実に参加者を増やしていることは大いに評価できる。さらに、相馬ならではの「パークゴルフ大会」「里山ハイキング」や「相馬報徳講座」「スマートフォン教室」「バリスタ講座」「相馬のお魚料理講座」等の特色ある公民館活動事業により、一層魅力ある公民館活動が展開できるものとする。

公民館は、地域住民の「教養」「健康」「生きがい」の情報共有の場、文化の香る場所である。今後も魅力ある特色ある公民館活動の推進を期待したい。

2-5 図書館機能の充実『図書資料等の充実と利用推進』

[事務事業] 児童図書の収集

相馬市図書館ステップアップ計画に基づき、今年度は児童図書を重点対象として購入し、広報やホームページの掲載を工夫し、更なる利用促進のための改善を図ることができたことは評価される。また、時宜に応じた相馬名誉市民コーナー等の別置展示の開催、読書週間のイベント、本の知恵袋等着実な取組により成果も窺える。

今後の課題として、図書館利用統計の分析やアンケートの実施による結果やその改善を図った取組等について、情報を積極的に発信していくことで図書館機能の充実に寄与できるものとする。さらに、二次評価の意見の中で、図書配置や読書スペースの改善に対する称賛の言葉からも分かるように、図書館機能の充実を図るという観点から、専門家や市民の意見を聴く機会を取り入れる等、次なるステップへ取り組んでほしいとする。

3【文化】

3-1 芸術文化の振興『音楽の郷づくり事業の推進』

〔事務事業〕 そうま音楽夢工房コンサートの実施

コロナ禍の影響はあるものの今回は予定通り5回の演奏会が開催され、実績値500名を超える多くの参加者で事業が推進されたことは評価される。また、SNSを活用したコンサートの周知や、オンライン申込等の取組、相馬市出身者の尺八演奏会の企画等、積極的な取組も評価できる。

今後の課題として、音楽のジャンルの幅、演奏家のコラボや演奏会の企画内容の工夫等により参加者を増やすと共に、一般市民のボランティアの参加・協力を呼びかけ、本活動を担う人材の育成・発掘に努めたい。市民活動の本格化と充実が一層図られ、本物の「音楽の息づく街」として、相馬市が発展することを期待したい。

3-2 文化財の保存・活用『相馬市史編さんの実施』

〔事務事業〕 相馬市史編さんの実施

「市史編さん事業」（平成17年度より編集開始）の取組は、令和6年度全10冊刊行予定として継続的に取り組んでいる事業である。本市の長い歴史、文化の理解や未来へ向けた市政発展の精神的基盤をつくる上で、重要な位置づけとなっている。また、市史の編さん作業においては、専門性が求められ時間や経費がかかり進捗には遅延が伴うことも容易に理解できる。そのため、現在の進捗状況や達成度については、一定の評価をすべきであると考ええる。

今後は、時間的な制約も関わってくるため、分執筆者との関係、関係職員の入れ替え等、新たな課題も生じてくることも予想される。今後、進捗率や見通しについて、説明責任を果たせるようにする必要があると考えられる。

3-3 文化施設の充実『市民の文化振興の拠点、利活用促進』

〔事務事業〕 市民会館の利活用促進

前年度のコロナ禍における年間利用者数の目標値を再設定し、相馬市民会館感染拡大予防ガイドラインを基に、「安全・安心」な施設利用のPRに努め、利用者数が増加し目標値170%を達成したことは大いに評価できる。また、未来の「志」づくり事業、NHKとの共同開催公開収録等の自主事業の積極的な開催等により、功を奏したものと考えられる。

市民会館は文化振興の拠点であり、「交流」「コミュニティの場」としての機能を持つ重要な施設でもある。今後も、感染防止対策に努め、広報活動の充実と共に魅力ある自主事業の開催、他組織団体のイベントの開催等により、市民の文化振興の拠点として、利活用の促進を期待したい。

3-4 文化財の保存・活用『常設展・企画展の開催』

〔事務事業〕 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催

歴史資料収蔵館が、度重なる福島県沖地震の影響により、再開の目途が立たない状況下にある。しかし、このような状況下においても企画展に向けた資料の精査、古文書のデータ化と目録の作成等、職員が一丸となってできるところから着手した前向きな取組は大いに評価できる。行政の財源の優先順位に従わざる得ないものの、施設・設備の早急な復旧を進め、専門家、学芸員の方々の意見をいただきながら、専門職員の配置、運営方法の課題についても長期的展望に立って取り組んでいく必要があると考える。

4 【体育・スポーツ】

4-1 生涯スポーツの振興『スポーツ少年団活動の充実』

〔事務事業〕 スポーツ少年団活動の充実

コロナ禍の裏に潜んでいる影響を受け、団数、団員数の増加は難しいものの、前年度と同様に市主催の歩け歩け大会や子ども駅伝、各団体毎の各種大会やイベント開催方法の工夫による努力や前向きな取り組みを評価したい。

相馬市は「野球」「グランドゴルフ」「バレーボール」等、スポーツに関心が高く、スポーツを愛する伝統が根付いている地域である。その一翼を担うのがスポーツ少年団活動であり、その充実、活性化を図ることにより、子どもたちの体力向上と運動機会の確保や生涯スポーツの基礎を培うという点で大きな役割があるものと考え。その意味で、補助金の交付については活性化へつながる一助となると考える。

今後も、スポーツ少年団活動の一層の充実に努めていただきたい。